

三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス実務委員会

泌尿器科領域 小林加直 (中国労災病院 泌尿器科)

高橋 聡 (札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座)

20 歳以上の複雑性尿路感染症患者より分離された原因菌の各種抗菌薬に対する感受性を測定し、患者背景別の感受性を検討した。

対象菌種は、*Enterococcus faecalis*、MRSA、*Escherichia coli*、*Klebsiella oxytoca*、*Klebsiella pneumoniae*、*Proteus mirabilis*、*Serratia marcescens*、*Pseudomonas aeruginosa*とした。対象患者は、DJ カテーテルや尿道ステントなど体内留置カテーテル症例を採用し、体外に露出するカテーテル（尿道カテーテル、腎瘻、膀胱瘻等）や腸管利用尿路変向症例等は除外した。明らかな基礎疾患のない男性も複雑性尿路感染症として対象に含めた。膿尿は、非遠心尿を用いたフローサイトメトリー法又は計算盤法で $\geq 10$  WBCs/mm<sup>3</sup>、尿試験紙法で陽性、又は尿沈渣鏡検で $\geq 5$ WBCs/hpf のいずれかを満たすものとし、尿中菌数が $\geq 10^4$  CFU/mL とした。さらに、本疾患に由来する自覚症状を有する患者とした。薬剤感受性は、Clinical and Laboratory Standards Institute に準じ、微量液体希釈法にて測定した。調査薬剤は 39 剤で、今回新たに Tazobactam/Ceftolozane (TAZ/CTLZ) を追加した。

2020 年 7 月から 2021 年 12 月の期間に、全国 43 参加施設のうち 32 施設より 793 株が提出された。提出株 793 株のうち、選択基準に合致しない 185 株を除外し、合計 608 株 (*E. faecalis* 100 株、MRSA 13 株、*E. coli* 330 株、*K. oxytoca* 25 株、*K. pneumoniae* 68 株、*P. mirabilis* 26 株、*S. marcescens* 7 株、*P. aeruginosa* 39 株) について、各種抗菌薬に対する感受性、耐性菌の分離頻度、患者背景別解析を行った。耐性菌の動向を含め、その結果について報告する。